

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772402588		
法人名	医療法人中屋覚志会		
事業所名	グループホームくにみ坂 (1階)		
所在地	大阪府枚方市津田南町2-40-20		
自己評価作成日	平成26年7月14日	評価結果市町村受理日	平成26年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigyosyoCd=2772402588-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年9月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の整理、整頓、掃除を心掛け綺麗で清潔なホームです。職員は入居者の話を傾聴し、一人ひとりの尊厳を重視し安心してホームで暮らせるように支援しています。食事は法人の管理栄養士の献立を基に調理専門職員がアレンジを行い栄養のバランス良く美味しい料理を提供しています。医療との連携も密で急病の場合でも24時間バックアップ体制が取れており安心です。職員のチームワークも良く資格取得や研修への参加等、向上心を持って働いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念を「自然のままに」と掲げ、家庭での生活と変わりなく普通の暮らしができるよう一人ひとりが穏やかに安心して過ごせる環境作り心がけています。地域に向けて認知症講座の講師を担ったり、高齢者SOSに登録するなど理解を深める為に、様々な関わりに努め地域の中で自然に暮らせるよう支援しています。また家族との関係性も大切に考え、家族会ではほとんどの家族が参加され家族同士の交流の機会にもなり、運営や個々のケアについて多くの意見交換が成されています。職員は研修や自己評価を兼ねたアンケートで自身のケアを振り返り、利用者に寄り添い最善の関わりについて職員間で話し合いながら支援しています。利用者が重度化する中でも全員で外出したり看取り支援に前向きに取り組み、状態が変わっても家庭と同じ寛ぎを提供できるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの設立時に作成された「自然のままに」の理念には住み慣れた地域で自宅と変わらない自由な暮らしと自分らしさの実現を意味している。誰からも良く見えるように玄関に理念の掲示をし管理者、職員全員が日々の実践につなげている。	ホームの理念を「自然のままに」と掲げ、新任研修や職員会議で説明と振り返りの機会を設け職員間で共有を図っています。地域の中でどのように暮らしていくかを検討したり、ケアの方向性について話し合い理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高齢者ボランティアグループの方と月に1回交流がある。近隣の方には自家製野菜を頂いたり近隣保育園児との交流も定期的に行っている。毎日、ホーム近辺を散歩しているので地域の方とも自然に挨拶を交わせる関係になっている。	町会役員と良好な関係が築かれ、様々な地域情報を得ています。老人会の三味線や民謡のボランティア訪問があり、近隣の幼稚園児と年3~4回交流の機会を持っています。地域の方が参加する地域ケア会議で認知症講座の講師を担っており、今後さらにホームへの理解や地域交流を広げていきたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	徘徊高齢者SOSの協力機関としての登録、地域住民からの認知症相談窓口として施設を開放している。また、地域で救命講習会の講師として出向いたり認知症サポートキャラバンメイトの講習会開催も予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括職員、地域住民代表、家族代表、利用者、他施設職員等の参加がありホームの日常生活や事故報告、現在取り組んでいるケアについて等、2か月毎に会議を開催しています。また参加者から意見や質問を聞きサービスの向上に活かしています。	会議は家族や民生委員、地域包括支援センター職員等の参加を得て、隔月に開催しています。ホームの運営状況や行事、評価報告等を行い、参加者と意見交換を行っています。徘徊高齢者SOSや救命救急講習会、エンディングノートの作成等についてアドバイスや意見をもらい、運営に活かしています。家族へは毎回参加を募り、会議内容を書面で報告しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携を密に取りサービスの向上に取り組んでいます。	管理者は積極的に市役所へ電話をしたり足を運んで、相談や報告を行い担当者とは良好な関係を築いています。地域ケア会議に市職員の参加があり情報交換がなされ、市から研修案内があれば必ず参加するようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの手引きを職員全員が閲覧できるようにし施設内研修やカンファレンス時に話し合い身体拘束について正しく理解し施錠を含める身体拘束しないケアに努めている。	職員は身体拘束についての研修や勉強会を年1回必ず受講できる体制を取っています。現在、家族の希望もあり安全確保の為に、セーフティベルトを一定時間のみ使用を余議なくされている事例がありますが、話し合いを重ね解除に向かっていきます。玄関やユニットは共に開放し、見守りながら閉塞感のない暮らしになるよう努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について重要事項説明書に記載し契約時に家族に説明を行っている。職員には虐待防止マニュアルの回覧、施設内研修、カンファレンス時に話し合いの機会を持ち防止に努めている。		

グループホームくにもみ坂(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームには成年後見人制度を利用されている利用者がいる。職員には施設内研修や回覧で学ぶ機会を持ち活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族には十分な説明を行い理解、納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情窓口の掲示、面会時に直接意見を聞く等取り組んでいます。年に1度の家族会にはほぼ全員の家族の出席があり意見交換をし運営に反映しています。	普段から家族の面会が多く、職員が必ず声をかけ、何でも話し易い雰囲気心がけています。家族会の参加率が高く、様々な意見が出されています。玄関の職員紹介ポートは要望により作成し、訪問者が職員の事をわかりやすくしています。また月1回介護相談員を受け入れ、利用者との会話の様子を聞き要望への気付きに繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で意見や提案を聞く機会を設け反映させています。直接意見が言い難い場合も考慮し定期的に職員アンケートを取っています。	毎月の職員会議では常勤者全員と非常勤代表者が出席し、他職員の意見も事前に聞いて個別ケアや業務内容について話し合っています。年2回職員アンケートを実施し、自己評価と合わせて意見を吸い上げています。普段から管理者が職員とコミュニケーションを図り、個別で提案や相談しやすい環境づくりに配慮しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に対しては給与水準を上げ残業時間ゼロを目標として取り組んでいる。職員同士のチームワークを大切に働きやすい職場環境の維持に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じた研修に参加できるよう勤務シフトを考慮している。また資格取得においても積極的にチャレンジできるよう考慮している。認知症実践者研修終了者が4名在籍している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や研修で知り合った同業者との交流があり情報交換を行っています。また2ヵ月毎に行われるグループホーム連絡会に参加し相互訪問を通じて質の向上に取り組んでいる。		

グループホームくにもみ坂(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っていること不安なこと要望等がある時はどの職員も傾聴し安心して暮らして頂けるよう関係作りの努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護保険の申請、更新の代行等、相談はいつもこころよく受け止める努力をしている。家族が面会の時は何か要望や困りごとがないか声掛けをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者からの要望を受け、他サービスを利用している方がおられた。必要に応じて家族、利用者からの希望を聞きながら支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意なことを一緒にしながら教えて頂いたり家事を一緒に行う等、暮らしを共にする者同士の関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の誕生会や行事に家族を招いて今迄の家族の絆を大切にしながら本人と共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人がホームに訪ねて来られたりお手紙のやり取りをされている方もおられる。お知り合いの方が訪ねて来られた時はお部屋でゆっくり話して頂けるよう支援している。	友人や知人が面会に来られた際には、お茶を出し居室やリビングなど落ち着ける場所でゆっくり気兼ねなく過ごしてもらっています。外出行事に馴染みのスーパーへの買い物を企画して実施したり、葉書のやり取りをレクリエーションに取り入れるなど、今までの馴染みの関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションを一緒にしているので参加されない方がいると心配されたり作業を分担で行う等、利用者同士の関係は良好である。		

グループホームくにもみ坂(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了して自宅へ帰られた方の自宅での生活の相談に乗ったり、家族との手紙のやり取りが継続してある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いや希望、意向の把握に努めている。困難な場合は生活履歴や趣味、家族からの情報提供などからケース会議で検討している。	入居時に本人・家族の暮らしの希望を聞きアセスメント用紙に記入しています。その後様子を見て本人の好みや意向を把握し支援経過に記載したりアセスメント用紙に追記しています。記録した書類は職員が見やすいようにファイリングし、全員で共有しながら意向に添った支援になるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握は家族、本人、以前のケアマネジャーにお尋ねし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を取り入れて本人の1日の流れ、食事量、排泄記録、バイタル測定等、職員全員が現状の把握をしている。また毎日のカンファレンスで1人1人のその日の出来事を中心に話し合い業務日誌に記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の思いやアセスメントを基に、担当者会議を行い介護計画をたてています。計画の実践状況が記録を通してわかるように取組み、毎月モニタリングを行い評価し3カ月毎に担当者会議を行っています。	本人や家族の希望、職員の意見等を参照に、解決すべき課題を挙げ介護計画を立てています。毎月評価表を参考にモニタリングを行い、3ヶ月ごとに見直しています。見直しの際は担当者会議を開いて職員から状態を聞き現状に添った計画になるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を基に職員会議等で情報の共有を行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に応じた支援を行っている。体験利用や体験宿泊も行っている。		

グループホームくにもみ坂(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、ボランティアの方々と協力しながら支援している。管轄警察には周囲のパトロール、消防署には防災訓練等で協力を受けながら安全に暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今迄のかかりつけ医を継続できる事を説明しています。母体が医療法人であり月に2回の往診や年2回の検診、24時間医療連携体制が整えられています。法人外の医院は家族、本人の希望に添った受診となるよう支援しています。	かかりつけ医は選択できますが、現在内科は全員ホームの協力医となっています。24時間医療連携体制がある協力医からの往診は月2回あり、身体状況や診察結果は、家族と医師、ホームの三者で書面で連絡し合っています。訪問看護と訪問歯科も必要な方に受けてもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	津田病院の看護師と連携し情報、気付きを伝え個々の利用者が適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	津田病院との情報交換や相談に努めている。また、入院時には連絡カードを作成しホームでの経過を詳しく伝達している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームとして最後まで支援していく方針を家族に伝えています。重度化した場合、主治医から家族へ状況を話してもらいホームも含めて対応を話し合い、看取りの指針に家族のサインを貰っています。全職員が情報を共有し週末の支援に取り組んでいます。	ホームの看取り指針があり入居時に説明すると共に、状況に変化があった場合にも今後の暮らし方の希望をその都度家族に聞いています。職員はホームの指針を理解しており、内部研修や医師からの説明等を受け、看取り支援が未経験な職員も前向きな姿勢で重度化された利用者支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者が応急手当普及員の認定を受け職員全員に救急救命の講習を行い知識を身につけています。また、津田病院との医療連携が整っており緊急時も24時間受け入れができる体制が出来ています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防消防署の指導の下、消防訓練を行っています。昼間だけではなく夜間帯を想定した訓練や地震に関する訓練も取り入れています。地域住民の協力も得られるよう民生委員と連携して働き掛けています。消防への通報連絡装置やスプリンクラーも完備しています。	年2回の避難訓練では、通報の手順や避難誘導、消火器の使用法の訓練を受けています。速やかに避難できるよう誘導の計画を作成し、消火器の講習は全員受けるようにしています。災害にあたって民生委員の協力を依頼しており、ホームを地域の避難所として利用することを受け入れています。	

グループホームくにもみ坂(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には1人1人の人格を尊重した言葉掛けをするように指導しています。敬語だけを使うのではなく自分の両親に接するような言葉遣いをするように、また排泄時の不用意な言葉掛けをしないよう配慮しています。不適切な対応があればその日のうちに管理者が注意をしています。	利用者の尊厳とプライバシー確保についての研修を入職時、及び定期的に行い職員に浸透を図っています。日常では言葉遣いに留意し、馴れ馴れしい会話や子供に対するような声かけをしないよう配慮しています。職員会議やアンケートで個々の対応について振り返り、親しみの中で適切な対応が継続できるよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が生活の中で本人の思いや希望が現れるよう言葉掛けに工夫したり態度からくみ取れるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせた対応を心掛けています。散歩のお好きな方には時間をかけて歩いて頂いたり早朝の入浴が日課の方には希望の時間に入浴して頂く等、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力もあり、その人らしいおしゃれの支援に努めています。月1回、訪問美容で美容師を招いたり、イベント時には美容師のボランティア指導の下、女性利用者にヘアメイクのサービスを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士作成のメニューを利用者の好みにホームでアレンジしています。食事作りや食器洗い等、利用者の出来る事に携わってもらっています。職員も同じテーブルに着き食べ楽しい食事時間となるよう支援しています。	調理専属の職員が配置され、利用者が食事が楽しみになるよう味や盛り付け、メニューを工夫して提供しています。調理の下ごしらえや洗い物などできる方に携わってもらい、職員の一人は利用者と共に食事を摂り、食事状況を調理担当に伝えていきます。利用者の状態に合わせて刻みやミキサー食に対応し、希望を聞いて代替え食や、外食行事を取り入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食事摂取量、水分摂取量の記録を付け適切な栄養が確保できているか把握している。また、状態、習慣に応じて調理法を変える等の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者が口腔清拭を行っている。うがいや歯ブラシが難しい方にはガーゼで拭き取り等、本人の力に応じたケアを行っている。		

グループホームくにもみ坂(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から把握したパターンに合わせたり、立ちあがる気配等を感じ取って声掛け誘導しています。排泄パターンを知ることにより自立に向けた支援を行っています。結果、布パンツになった利用者もいます。	毎日排泄と水分チェック表を記載し、個々のタイミングや仕草を観て排泄の支援をしています。少しでも自立に向け下着を変更できるよう、変化があれば申し送りノートに記入し、職員間で共有しながら同じ支援ができるよう配慮しています。布の下着への変更を試みた場合は、その後の経過も観て継続できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を付け適度な運動、飲食物の工夫をして便秘予防に努めている。また医師の処方により服薬コントロールで便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2,3回を目処に入浴して頂いています。拒否傾向の強い方には職員が協力し合い無理なく入って頂く工夫をしています。1人1人、お湯を変えたり入浴剤の使用やゆず湯や菖蒲湯などすることも楽しんで入って頂くよう支援しています。	入浴の基本的な曜日をおおよそ決めていますが、希望があれば都度対応し週2回は入ってもらっています。時間は自由で朝に希望して入られる方も多くいます。重度の方は二人介助で支援し、拒否傾向の方には時間を変えて誘導したり、銭湯に誘うなど無理強いせず心地よく入ってもらえるよう工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	センター方式の記入様式を使用し1人1人の睡眠パターンを把握し、その人に合わせた安眠や休息の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬表を作成し1人1人の薬の効果、副作用を把握し服薬支援を行っている。薬剤師との問診票での連携、相談や身近に薬の本を置き、どの職員も見ることができるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、違った内容のレクリエーションを活動を行い各自の意思で参加を楽しまれている。個別に散歩に出かけられたり気分転換の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日全員が散歩に出られるように支援しています。近くの田園を1周したり体調に合わせて少し離れた公園に出かけたりしています。法人のバスを出してもらい花見や買い物等、外出の機会を作っています。自宅に帰る事も支援しています。	近隣への散歩を日課とし、毎日出掛けています。年に1~2回買い物行事を取り入れたたり花見、紅葉等を楽しんでもらっています。初詣には法人のバスを利用し毎年全員で出掛けています。また、庭の菜園の世話や駐車場での花火など外気に触れる機会を多く作り、気分転換できるよう配慮しています。	

グループホームくにもみ坂(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物行事で予算内でご自分の選ばれた物をご自分の財布から支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご家族の制限がない限り自由に家族、兄弟とのやり取りができるよう支援している。季節毎に手紙のやり取りをしている方や携帯電話を使用される方もおられた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前花壇は手入れが行き届き、リビングには利用者の行事写真や季節を感じられる手作りの展示物で飾っています。廊下には1人ずつ座れるよう椅子を配置しその時の気分で過ごせるよう配慮しています。空気清浄機や加湿器を設置し換気と気を配り居心地の良い空間作りに努めています。	玄関先や庭に手入れされた花壇や菜園があり、窓にグリーンカーテンが施され緑が多く季節を感じることができます。リビングには行事の写真が飾り付けと共に掲示され、一人でほっとできる場所が随所に設けられています。感染予防の観点から手洗い・うがい、掃除を徹底し、温湿度管理も行い清潔で居心地の良い共用空間を保てるよう努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いながらも工夫している。窓際に小さなテーブルセットを置き、利用者が自由に利用している。廊下には1人掛けの椅子を配置し1人になれる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	表札は手作りで自分の部屋がわかるようにしています。入居時には今まで住んでいた部屋にあった物を持って来てもらうよう依頼しています。使い慣れた家具や時計等を持ちこんでもらい家族の写真や縫いぐるみを飾り居心地が良い空間作りの工夫をしています。	使い慣れた家具や馴染みの物を持って来てもらうよう説明し、タンスや鏡台、椅子等を持って来られ、配置は利用者に決めてもらったり家族と相談し過ごしやすいよう設置しています。本人が好きないぐるみやクッション、家族の写真、趣味の品等を飾り、その人らしく落ち着いた居室づくりに配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札や、トイレの場所等、わかりやすいよう工夫している。引き出しには内部がわかるよう明記し出来るだけ自立した生活が送れるよう援助しています。		